



200年の歴史を持つ伝統的なサウナ。長い間使われてきた内部には、現在主流となっている電気サウナにはない、本物の蒸気のみがなごる。

フィンランドの南西の端、バルト海に面した温暖な保養地ナアンタリ。このあたりの海はアーキペラゴ（群島）と呼ばれる海域で、大小さまざま、四万以上にも及ぶ島々が点在している。その海辺の町ナアンタリから車で二十分ほどの小さな島に、アーキペラゴの伝統的な漁村を再現したヘッランクッカロという不思議な空間がある。

ヘッランクッカロとは、お母さんのポケット、という意。心の底からくつろげる快適な場所というような意味を持たせているのだろう。ここは、いわば大人の林間学校ともいうべきネイチャー・スクールになっていて、この地方の文化や歴史を学ぶ多彩なアウトドア・プログラムが用意されている。自然の中を歩いたり、カヌーやボートを漕いだり、あるいは現地の漁師に案内されてアーキペラゴに昔から伝わる漁法を体験したり。また、ランタンの下で伝統料理の夕食を囲むアウトドア・ディナーも楽しみの一つだ。

昔ながらの船小屋やログキャビン、それに、焚き火を使った魚の燻製づくりなど、まるで百年前にタイム・スリップしたような楽しさ。なかでも、二百年前の小屋を移築したというスモーク・サウナは貴重な体験だ。三〜五時間もかけてサウナの中で薪を焚いて暖め、二時間くらいかけて煙を外へ出してやっから入浴するもので、松の香り漂う本場の伝統的なサウナだ。サウナから出ればそのまま海へ。そのあとは、やはり薪で焚いた露天の浴槽につかって海を眺めながらのんびりと体を温めれば、何ともいえない開放感に包まれ、ゆったりと至福のときが過ぎていくのである。

# Naantali

<http://www.molmofinland.com/press/foreststudy-archipelago.html>



近くのナアンタリやトゥルクの町から、仕事の仲間どうしが、会社を終えてから小舟でやってきて棧橋に乗りついたりする。「サウナ会議」といって、どこまでがホントの会議かわからないが、共にスモーク・サウナに入り、海に飛び込み、ビールを飲んで語り、夜の10時を過ぎてまだまだ明るい北欧の夏を楽しむ。なんとも贅沢なアフター5ではないか。

## 太陽の町、ナアンタリ アーキペラゴの休日。



# herrankukkaro

[ヘランクッカロ]

Komea Mies

## 彼こそコメア・ミエス

オーナーのペンティ・オスカリ・カンガスさん。まさに、フィンランド語で言う「Komea Mies (カッコイイ男)！」だ。いかにもアーキペラゴの老漁師の風情が漂う彼は、実は、トゥルク周辺をクルーズする蒸気船ウッコベッカ号で有名な船会社の社長さん。もともと自分の別荘だったこの島に、どんどん施設を拡張していったのだそうだ。

